

70代シニアの 地域コミュニティの実態と意識

本レポートは、シニアの地域コミュニティについて、「日常行動」「人との交流」「コミュニティ活動」の3つの視点から、50～60代との比較を行うことによって、70代シニアの実態と意識、及びニーズの特徴を明らかにした。

■ 70代は散歩や運動を週1日以上行う人が多く、健康への意識が高い

- 70代は「常に何かを学び続けたい」との回答が6割を超えており、学習意欲が旺盛。
- 70代のうち夫婦2人世帯は、散歩や買い物を夫婦一緒に行う人が減少。「夫にはできるだけ外に出かけてほしい」と考える女性が7割にのぼる。

■ 70代は地域内での友人・知人との交流頻度が高く、近所付き合いを“セーフティネット”としたい意識が高い

- 70代は「会社の同僚・元同僚」との交流は少なく、「趣味・スポーツを通じた友人」や「近所の同世代の人」「近所の世代が異なる人」といった「近所の人」との交流が多い。
- 70代は、非同居家族との交流が活発になる一方で、“自分優先”志向が強まる。

■ 70代は地域内・地域外のコミュニティ活動への参加率が高い。最も参加意向が高いコミュニティ活動は、「趣味サークル」

- 70代は「自治会・町内会」、地域内・地域外の「趣味サークル」「運動・スポーツサークル」への参加率が高い。
- 70代が最も大切にしているコミュニティ活動は、「自治会・町内会」、地域内の「運動・スポーツサークル」「趣味サークル」。

調査概要

■ 定性調査
調査方法：インタビュー調査
調査時期：2014年8月
調査対象：一都三県在住 70代男女：計12名
単身男性：3名
単身女性：3名
夫婦2人世帯男性：3名
夫婦2人世帯女性：3名

■ 定量調査
調査方法：郵送調査（70代）+ インターネット調査（50～60代）
調査時期：2014年11～12月
調査対象：一都三県在住 50～70代男女：計900名
単身世帯/夫婦2人世帯/その他世帯に分け、性年代別10刻みで各50名

※詳細は最終ページ参照